

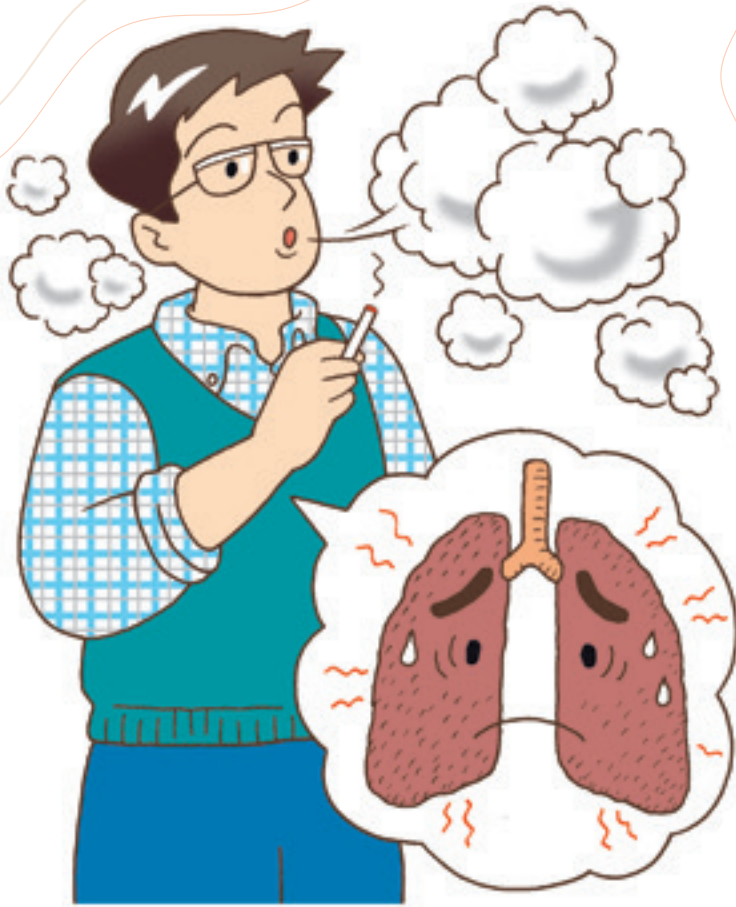
もっと
よく知ろう

肺がん

肺がんにかかる人は年々増加しており、2014年に肺がんが亡くなった日本人は7万3,396人にのぼります(厚生労働省人口動態統計)。1998年に胃がんを抜いて以来、がん死亡原因の毎年ワースト1位です。

タバコが最大の危険因子

危険因子の中でもっとも大きいもののひとつが、タバコの影響でしょう。タバコの煙には、約4000種類の化学物質



が含まれており、このうち200種類以上が有害物質とされ、約40種類の発がん物質が含まれているといわれています。そのため肺がんは喫煙率の高い男性に多く、死亡数も女性の約2.5倍以上となつています(女性の1位は大腸がん)。近年では男性の喫煙率が低下する一方、女性の間にはタバコを吸う人が増えていて、死亡数の伸び率では女性が男性を上回っているようです。

肺がんは、せきやたんなどの自覚症状がないケースがあり、治療が難しい段階に入つて発見されることから、がんの中でも死亡率が高い病気です。

しかし、最近では肺がん検診が充実し、治療方法も着実に進歩をとげています。

定期的検査は必要不可欠 症状が気になったときも

肺がんの種類は、発生部位が肺の入り口近くにある「肺門部型」と、肺の奥にできる「肺野抹消部型」の2つに分けることができます。

肺門部にできやすいのが「扁平上皮がん」と「小細胞がん」。代表的な扁平上皮がんは喫煙者に多く、初期のころからせきやたん、ときには血たんが出ることもあります。こうした症状が3〜4週間続くようなら検査を受けたほうがよいでしょう。

ただし、肺門部の早期がんはレントゲン写真には異常が写りにくいため、診断

にはたんの細胞を調べる喀たん検査を行います。

一方、肺野抹消部にできるのが「腺がん」と「大細胞がん」です。腺がんは女性の非喫煙者にも多く見られ、リンパ節などに転移しやすい厄介ながんです。初期の段階では無症状のことが多いものの、こちらは定期的なレントゲン検査でも見つけやすいと言えるでしょう。

早期発見なら9割は完治 予防にもつとめましょう

肺がんの治療は、手術で悪い部分を取り去る外科手術療法が中心になります。がんのある部分を周囲を含め切除する手術のほか、開胸せずに胸腔鏡を使ってがん細胞だけを取る部分切除の手術も定着してきました。肺門部の早期がんが発見された場合、内視鏡を通して低出力のレーザーを照射し、がん細胞の死滅を図る方法もあります。手術に比べて患者の体の負担が少なく、肺の機能を低下させずにすむというメリットは見逃せません。

いずれにせよ、早期発見であれば肺がんの9割は完治できるといえます。タバコを吸わないことはもちろん、ふだんから、(1)バランスのよい食事をする、(2)規則正しい生活と適度な運動、(3)ストレスをためない、など予防に心がけましょう。そのうえで、肺がん検診を最低でも年1回受けるようにしたいものです。